

第9号

発行 2014年8月1日

ことう地域チームケア研究会たより

湖東地域の住民が、どんな状態でも自分らしく、いきいきと暮らせるしくみづくりのために、関係者がお互いの不安や不便を分かち合ったり、関係職種をわかり合う取組を通じて、チームづくりを進めることや、実際の支援に反映させることを目的とした研究会です。

見出し

第9回ことう地域チームケア研究会が開催されました。

今回の話題提供は・・・

交流会・自己紹介タイム

お知らせメールの登録について

次回の研究会について

第9回 ことう地域チームケア研究会が開催されました。

去る7月8日に第9回目の研究会が開催されました。

日時:7月8日(火)18:30~20:30

会場:くすのきセンター1階研修室

参加者:70名(医療関係者:36名、福祉関係者:14名、行政等:20名)

今回は、湖東地域リハビリ推進センターの矢野氏と松木診療所の理学療法士 大谷氏から話題提供をしていただきました。



そのうち、8つに分かれて、意見交換を行いました。

今回の話題提供は・・・

話題提供その1

「湖東地域リハビリ推進センターの活動について」

健康推進課
在宅医療福祉係
矢野 靖子
理学療法士



話題提供その2

「訪問リハビリテーションにおける理学療法の実践体験から」

松木診療所・湖北グリーンブクリニック・湖南かいつぶり診療所
大谷 淳 理学療法士

「リハビリ=社会参加」

理学療法、作業療法、言語療法は、それ自体がリハビリなのではなく、リハビリ=社会参加のひとつの手段です。

大谷さんは、患者さんや家族の希望(ニーズ)に合わせた理学療法を実施し、社会参加するのがリハビリだとお話されました。

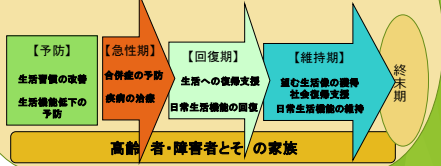
好きなものが食べられるようになり、患者さんが笑顔になり、家族も笑顔になる・・・これが社会参加です。

患者さんは寝たまま、痛みもない「ボイタ法」も少し紹介していただきました!



「リハビリテーション」

各機関の機能分担と連携のもとでおこなわれる



個別支援

目的

CM等の専門職が、住宅改修や福祉用具等に関する個別ケースの相談を通じ、リハの視点を持つことができる

個別ケースの相談に対し、作業療法士・理学療法士による専門的な助言・指導を行う

交流会・自己紹介タイム

- ★講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
- ★今、私たちが取り組んでいること など

《検討テーマ》

①80歳の男性。チューブ栄養。経口食事摂取と飲酒のニーズ。嚥下機能の理学療法。スプーンでスープ可能となり明るい希望の表情。1カ月後、肺炎で逝去。この事例についてどう思いますか？

②60歳主婦。脳梗塞片麻痺、2病院を計6カ月入院、歩行可能で退院。フォローなし。知人の紹介で訪問リハ。片麻痺の上肢機能に目標設定し理学療法開始。3年後、四つ這い可能、調理に麻痺手使用可能に。病院と在宅でのリハビリの違いをどう思いますか？

①の意見交換

- 80歳、平均寿命を達成し、スープを飲めた。患者のQOLにつながった。
- 本人・家族の思いが一致していればいいは残らなかったであろう。
- PEGから離脱された方も事例として3例ほど出会ったことがあり、経口摂取できるようになった。
- 本人のニーズをつかむことが大切、難しい中、うまく引き出してこれたなと思う。
- 経口摂取のリスクはあるが、この症例ではきっと本人も幸せだったと思う。
- 病院の中でこのような患者さんがいると、慎重になってしまう。責任問題からリスク管理が優先になってしまうというのが現状か。
- 本人・家族・セラピストの人間関係が大切。
- 目標設定を本人に合わせる。
- 病院においても、退院後の支援を視野に入れた計画を立てる。

せせらぎ作業所 (甲良町) さんの クッキーをつま みながら…



- PTが嚥下リハをするのか？と驚きがあった、病院では出来ない。(することがない)
- 病院では日常生活への復帰が優先で、社会参加まで考えが及ばないこともあった。
- 今まで病院勤務をしていたが、在宅に出たことで、考えも及ばないことに出会えた。
- 誤嚥での発症については、本人の生活の意義を考えると、全員一致で正しかったという意見であった。

②の意見交換

- ポイタ法について、最初は驚いたが効果が実感できた。
- 生活の場で、本人がどうしたいのかをしっかりと汲み取ることが大切であり、そのためには関係職種の協力が必要。
- 現場ではマンパワー不足を理由に、利用者のQOL向上の機会を奪ってしまっていることもある。

- 目標設定について話し合った。
- 設定にあたり、本人や家族からしっかり聞くことが大切。その聞き取りに力が求められる。
- まずは小さなものから、みんなで少しずつ大きくしていく。
- QOLのゴールについて、急性期では日数制限もあり、目先の身体機能の向上に視点が行きがち。
- 遠く先にある、生活のゴールに目を向けることで支援することができるのではないかな。
- 地域の多職種が連携し、時間をかけた支援が必要、各持ち場で出来る事をしていく。
- リハビリの効果に驚いた事例も出てきた。80代、半身麻痺だが車に乗りたくて希望された。自分は無理だと思ったが、PTが「じゃあ目指しましょう」といった。結果乗れるようになった。そうすることで、家族の中で運転をするという役割が生まれた、自分で外出することも出来るようになった。
- 病院では様々なリハ職が関わり本人のニーズに合う形で進めている。
- 事例②の方、会うたびに手が動くようになっておられる。
- 自分たちの対象者は、だんだん高齢になり、障害を持たれていく、子どもたちも障害を持つ子もいる。
- 自分たちは、障害とともに生きていくことを決めた、そのためにセーフティネットがある、私たちは傷ついたら生きていけない動物ではない。

ご参加ください！ことう地域チームケア研究会

お知らせメールの
登録をお願いします！

ことう 地域チームケア研究会では、研究会の開催状況や、次回のご案内をメールでお知らせします。ご希望の方は、

- ① お名前
- ② ご所属
- ③ ひとこと

をいれて事務局までメール送信してください。

事務局 (mail)

kenko@ma.city.hikone.shiga.jp



連絡先：ことう地域チームケア研究会事務局
彦根市健康推進課 TEL：0749-24-0816
湖東健康福祉事務所 TEL：0749-22-1770
mail：kenko@ma.city.hikone.shiga.jp

次回は…**9月9日(火) 18:30~20:30**

テーマ：**地域包括支援センターって何するところ？**

会場：**彦根市八坂町1900-4(市立病院敷地内)
くすのきセンター 1階研修室**

団体：**地域包括支援センター**



HP「在宅医療福祉の森」
でも研究会のページをご覧
いただけます。
黄色矢印をクリック



ホームページもご覧ください。

湖東健康福祉事務所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/e/h-hwc/index.html>